

平成 31 年度事業計画

1. 管理運営

1.1 総会

総会は定時社員総会として事業年度終了（12 月 31 日）後 2 カ月（2 月末日）以内に開催する。総会では事業報告及び決算の承認、定款の変更、理事の選任他の重要事項を決議する。

1.2 理事会

平成 31 年度中に、2 回あるいはそれ以上理事会を開催し、事業計画・予算、事業報告・決算の審議承認の他、社員総会の招集、規則の制定、変更、本会議の職務執行の監督、役付役員の選定等の審議・決定等を行う。

1.3 企画委員会

企画委員会を適宜開催し、以下の業務を行う。

- ① 会長の作成する事業計画書の内容となる事業等について検討し、会長に報告
- ② 大ダムに係る調査研究等の成果の紹介及び普及啓発のための企画案作成

1.4 技術委員会

技術委員会を適宜開催し、以下の業務を行う。

- ① 大ダムに関する調査研究
- ② 国際的な技術交流等に関する計画案を作成

2. 事業

定款第 4 条に定める次の事業を行う。

- ・大ダムに関する情報収集、調査及び研究
- ・大ダムに関する技術の交流及び指導
- ・国際大ダム会議への参加及びその活動に対する協力並びに大ダムに関する国際技術交流
- ・大ダムに係る調査研究等に係る成果の紹介及び普及啓発

2.1 国際大ダム会議等国際交流事業

2.1.1 ICOLD 第 87 回年次例会（カナダ・オタワ）参加

2019 年 6 月 9 日(日)から 14 日（金）までカナダ・オタワで開催される ICOLD 第 87 回年次例会に参加する(表-1)。さらに技術委員会に参加し、情報交流する(表-2)。技術委員会の進捗状況・課題の確認、情報共有等のため、事前に国際分科会を開催する。また、ICOLD 地域クラブのひとつである「アジアパシフィックグループ(APG)」の会議に参加し、当地域のダム情報交換と技術交流活動を推進する。技術展示会については、JCOLD ブースを 2 区画予約しており、我が国のダム技術を海外に紹介する。

表-1. 全体プログラム

メイン会場： Shaw Centre

月 日	行事	ツアーやイベント
6月8日（土）	カナダ大ダム会議短期講習会*	
6月9日（日）	ICOLD 幹部会 / ICOLD 幹部及び組織委員会会議 若手技術者集会 カナダ大ダム会議短期講習会*	シティツアー
6月10日（月）	ICOLD 幹部及び技術委員長会議 技術委員会ワークショップ 地域クラブ	シティツアー 歓迎会 同伴者ツアー*
6月11日（火）	技術委員会 技術展示会及びテクニカルセミナー	若手技術者交流会 歓迎会（展示） 同伴者ツアー*
6月12日（水）	国際シンポジウム 技術展示会及びテクニカルセミナー	文化行事 同伴者ツアー*
6月13日（木）	国際シンポジウム 技術展示会及びテクニカルセミナー テクニカルツアー（午後のみまたは終日）	
6月14日（金）	ICOLD 総会 ワークショップ	オプションツアー* 送別会
6月15日（土）		スタディツアー*出発

*登録料のほかに参加料が別途発生します。

表-2. 技術委員会への参加

A. ダム解析設計における計算問題委員会	野口 博章
B. ダム設計における地震問題委員会	佐々木 隆
C. ダム水理委員会	高塚 哲
D. コンクリートダム委員会	山口 嘉一
E. フィルダム委員会	田頭 秀和
F. 水資源計画エンジニアリング委員会	川崎 秀明
G. 環境委員会	安田 吾郎、福田 悠太(Co-opt)
H. ダム安全委員会	小坪 洋巳、上田 悟(Co-opt)
I. ダムを取り巻く公衆の安全委員会	濱口 達男
J. 貯水池堆砂委員会	佐藤 正俊、角 哲也(Co-opt)
K. 水力発電統合運用委員会	小坂 馨太
L. 鉦澤ダム	(JCOLD からの委員なし)
LE. 堤防委員会	森 啓年
M. ダム運用・維持および補修委員会	向原 秀樹
N. 広報・教育委員会	森北 佳昭

O. 世界ダム台帳・文書委員会	松本 徳久
P. セメント混合材料ダム委員会	吉田 等
Q. ダム監視委員会	高野 準
RE. 貯水池水没移転委員会	(調整中)
S. ダムの安全のための洪水評価委員会	柏柳 正之
T. ダムの将来見通しと課題特別委員会	福渡 淳一
U. ダム及び河川流域の管理委員会	箱石 憲昭
V. 水理機械委員会	山本 浩樹
W. ダム形式の選定特別委員会	安田 成夫
X. 財務・諮問委員会	(JCOLD からの委員なし)
Y. 地球気候変動とダム委員会	筒井 純一
ZX1. 地域クラブ	
ZX2. 若手技術者集会 (YEF)	齊藤 瑛璃香
ZX3. ICOLD 役員会	

「国際シンポジウム」

(1) シンポジウムテーマ： 持続可能かつ安全なダム技術

(2) トピックス：

1. 技術革新／ダム、鉍滓ダム及び洪水吐の調査、設計、建設、運転・保守の技術と近年の進歩
2. 持続可能な開発／ダム及び鉍滓ダムの計画、設計、建設、運転、廃止、閉鎖のための戦略（気候変動、堆砂、環境保護、リスク管理）
3. 災害／ダム、鉍滓ダム、付属構造物、洪水吐及び貯水池の減災技術（洪水、地震、地すべり）
4. 極度の気候条件／ダム及び鉍滓ダムの運用（永久凍土、氷雪荷重、砂漠/湿潤気候、地盤災害）

2.1.2 第5回 APG（イラン・テヘラン）への参加

ICOLD プラハ年次例会の APG 会合において承認された、第5回 APG シンポジウム（イラン・テヘラン）に参加する。（詳細は未定）

2.2 調査研究事業

2.2.1 ダム建設状況調査

平成31年3月31日現在の工事中のダムについて「大ダム調査表」により調査し「ダム建設状況調査表」にまとめ会誌「大ダム」に掲載する。

2.2.2 ダム施設概要調査

平成30年4月1日より平成31年3月31日までに竣工したダムについて調査し「ダム施設概要調査表」を作成する。

上記2.2.1 および2.2.2 の調査の成果を ICOLD 技術委員会 “Committee of the World Register of Dams and Documentation” に報告する。

2.2.3 ダムコンクリート凍害実験研究分科会

平成 31 年 6 月：今年度調査方針確認

平成 31 年 12 月：第 56 回凍害実験研究分科会

2.2.4 ダム設計基準調査分科会

平成 29 年 2 月 1 日（水）に第 1 回分科会を開催して以来、(1) 地震 WG、(2) 洪水 WG、(3) 既設ダム WG、(4) 新形式のダム WG の 4WG を設置し議論を進めてきた。

分科会では、各 WG の報告を受けて、行政的な方面との関連を含め全体の方向性を検討する。

2.2.5 『日英ダム技術用語辞典』改訂分科会

- (1) ICOLD用語辞典に対する日本語を確定させたことから、ICOLD辞書に日本語の追加を推進する。
- (2) 新たな技術用語を取り込んだ用語集の作成に向け、作業を進める。
 - ✓ レベル 2 地震関連用語
 - ✓ 日本独特のダム関連用語（異常洪水時防災操作や水位を表す語など）
 - ✓ 台形 CSG、巡航 RCD 関連用語
 - ✓ リスクマネジメント関連用語
 - ✓ 契約方式に関する用語（コンセッション、BOT など）
 - ✓ 建設機械を表す用語（バイバックなど）。必要な語は「建設機械等損料表」で抽出できる。
 - ✓ 堆砂対策関連の用語

2.3 内外情報発信事業

2.3.1 会誌「大ダム」の発行

平成 31 年度においては、企画委員会編集分科会の編集方針に基づき、会誌を 4 号発行する予定である。ICOLD カナダ・オタワ第 87 回年次例会開催案内と報告、同シンポジウム発表論文紹介、ダム技術講演討論会概要等を掲載し、日本大ダム会議の活動及び内外のダム技術関連情報等を会員及び一般購読者等に広く紹介する。

2.3.2 広報・環境分科会の検討

- (1) 分科会における「環境」への取り組み

ダムに係る環境問題のメリット、デメリットを正しく評価し、又はデメリットを可能な限り軽減する手段を調査研究し、その結果を一般社会に発信することが重要な課題である。このため、ICOLD 技術委員会（環境委員会他）での過去の論文等を参考にした各国の取り組み状況調査を継続して行う。

- (2) ダム及びダム技術の広報

① 平成 23 年度から実施している広報連絡会を通じた関係団体との広報等の情報交換を引き続き実施し、効率的、効果的な広報の実施に取り組む。

② JCOLD は海外ゲートウェイとしての位置付けもあり、今後海外との情報受発信をより効果的にを行うため、ウェブサイトの更なる充実・活用に向け、HP の更新を適宜実施する。

また、ウェブサイト検索機能の更なる展開に向け、会員各社に発行されているログイン ID、PWD の周知方策を再検討する。

2.4 技術交流・指導事業

2.4.1 ダム技術講演討論会

第 52 回ダム技術講演討論会を、一般社団法人日本大ダム会議と一般社団法人ダム・堰施設技術協会の共催で 10 月末～12 月初旬に開催する。開催にあたっては、プログラム充実を検討するとともに、会員はもとよりダム技術関係者に幅広く参加を呼びかける。

2.4.2 ダム現場見学会

ダム現場見学会は、平成 19 年度からダム工学会と共催で秋季に実施しており、平成 31 年度も見学を行う予定である。